

発行日：2011年6月1日

発行人：パートナー情報誌「香澄」編集部会
 編集員：浅野明宏、有吉潔、稲葉寛、尾形孝彦、
 栗原知彦、中村利夫、平江俊之、安川敏行、
 深澤幸義、高橋慎、松本忠士、中根尚美、

東日本大震災について

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災については、各地に甚大な被害をもたらしたところであり、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。センターにおいては、地震発生時はパートナー図書グループの打合せを行っている最中でした。揺れが収まった後、館内から庭の方に避難しましたが、余震が続き、しばらく屋外で待機せざるを得ませんでした。幸い大きな人的被害はありませんでしたが、施設については天井や壁の損壊等の被害があり、震災後しばらくの間は休館を余儀なくされたところです。5月1日に展示室など一部施設の利用再開となりましたが、完全復旧には相当の時間を要する見込みです。

しばらくは不慣れた状況での運営を強いられますが、パートナーの皆様のご協力を得ながら復旧へ向けた取り組みを進めていければと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。(センター：高橋)

新任職員自己紹介

山中好弘 係長

霞ヶ浦環境科学センターへ参りイベント・記録グループのパートナー活動を担当いたします山中と申します。以前の霞ヶ浦は、水草の中の魚を追いかけ、貝殻を投げて競争するなどの遊び場でした。今でも、子供を連れての釣りやサイクリングなど身近な存在です。しかし、幼少の頃に見た霞ヶ浦の面影は少なく寂しい思いを感じることもあり、水質悪化をさせた一人であることを痛感することも度々です。自ら水環境について再意識をして、できることから改善をしたいと思っております。

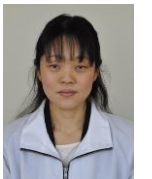


これから、パートナーの皆様と一緒に、活動を楽しみつつ霞ヶ浦水質浄化についての啓発を進めることができればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

土肥奈津子 嘱託

文献資料室勤務となりました土肥と申します。

家から数分歩くと、霞ヶ浦を望むことのできる自然豊かなところに住んでいます。幼いころは、なにげなく見ていた風景も、大人になった今、とても魅力的な場所だと気付かされます。四季折々の自然、野鳥・・・今でも散歩をしていると、日々、新しい発見があり、とても心豊かな気持ちになります。このたび、以前より関心のあった環境に関する仕事に携わることができ、身の引き締まる思いです。微力ではございますが、熱心な活動をされているパートナーの皆様のお力になればと思っております。よろしくお願いいたします。



金澤孝枝 臨時職員

環境活動推進課の臨時職員として配属となりました金澤と申します。3月11日に発生しました東日本大震災の影響により、センターが閉館の中、勤務がスタートしました。

この度の災害を経験し自然の持つ脅威を痛感したと同時に、沢山の恵みと豊かさを私達に与えて下さっていたことへの感謝、さらには自然と共存する難しさと重要性を改めて学ぶ機会となりました。そして、センターにおいても様々な活動を通じて自然と触れ合い、霞ヶ浦の環境保全にご尽力されているパートナーの皆様のを拝見し、微力ながら私もお役に立たせて頂きたいと強く思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



平成 23 年度パートナー活動に係わる担当者および各グループリーダー等一覧

業務区分	霞ヶ浦環境科学センター		パートナー		登録人数
	担当職員		リーダー	副リーダー	
パートナー活動全体	深澤主査 (センターHP 更新) 小森主任				66
パートナー企画部会	松本主任、山中係長、高橋主任		会 長：尾形孝彦	副 会 長：栗原知彦	13
情報誌「香澄」編集部会	高橋主任、松本主任、中根主事		編集長：安川敏行	紙面編集：稲葉寛	9
研修グループ	長谷川主査、稲田主査、宮本係長		尾形孝彦	安川敏行、浅野明宏	24
イベント・記録グループ	山中係長、松本主任		栗原知彦	目次隆、山中章	34
生き物グループ (魚類)	中村嘱託、小森主任		腰塚昭温	大須賀誠一	19
生き物グループ (植物)	福田嘱託、軽部主査、中根主事		有吉潔	二階堂春恵	26
図書グループ	中根主事、菱沼嘱託、高橋主任		山中章	平江俊之、細谷浩	18

平成 23 年度各グループ活動計画

企画部会

活動3年目を迎えるにあたり、あらためて企画部会について紹介します。部会発足は平成21年で、パートナー活動の活性化及び各グループの自主活動の推進を趣旨に、パートナー企画・広報委員会（企画部会・「香澄」編集部会）として、センター中原さんの熱い想いから発足しました。その中で企画部会は、パートナー全体に関わる自主活動（案）の内容検討及び全パートナーへの活動内容の広報、活動の実施、そして活動報告を「香澄」に掲載し、活動の可視化を図りながら、年間プロジェクト計画に沿ってセンターと連携し活動しています。

今年の活動方針は、より多くのパートナーの参画でプロジェクトを企画・運営し、楽しく充実した活動の推進を目指します。プロジェクト計画は、活動情報の発信、研修・交流の充実、霞ヶ浦流域の市民活動との交流を主テーマに取り組みます。

プロジェクト活動概要

- ・ センターフェスティバル（夏まつり）には、パートナーによる企画・運営の出し物を出品
 - * 全パートナーへ呼び掛け、実行委員会にて企画
- ・ パートナー情報誌「香澄」を2ヶ月に1回発行を継続
 - * ホームページにも掲載継続
- ・ パートナーのスキルアップを目的に、「パートナー霞ヶ浦講座」を企画
- ・ センターパートナー全体交流会
 - * 各グループの活動発表と講演会等を検討
- ・ 霞ヶ浦流域の市民活動団体との交流会
 - * 市民活動団体の活動現場の見学と交流
- ・ パートナー霞ヶ浦クリーン Up 活動
 - * 湖岸指定範囲の清掃を月1回実施
- ・ センター「いきもののにわ」の企画検討
 - * センター構想を踏まえ、連携して活動

その他

- ・ 平成23年度パートナー企画・広報委員会は、「香澄」編集部会が12名（職員含む）編集長は安川、企画部会が16名（職員含む）会長は尾形、副会長は栗原が引続き担当することになりました。
ご協力宜しくお願い致します。

（企画部会長：尾形）

研修グループ

環境学習の補助として、センター研修室や出前講座、センターイベントにおける環境学習補助があります。また、自主企画として「フィールドで水を覗いて感じよう Part 2」の実施、および継続化のための計画立案などがあります。さらに、定例会を年間4回（4月、7月、11月、2月）開催し、計画の進捗状況のフォロー及び反省を行いフィードバックします。

本年度の水環境学習プログラムは、水環境・大気・生物・歴史の4つのカテゴリで構成、学習目的に応じて選択できるプログラムが準備されています。詳細はセンターホームページの「霞ヶ浦水環境プログラム」を参照下さい。

パートナーが、補助者であっても指導者であるとの意識を持ち、更なるスキルアップとプログラムポリシーの理解を深めるために、水質分析等の勉強会を月一回程度開催し、新プログラムによる学習がより充実するよう活動していきます。

重点活動

- ・ 環境学習補助
 - 前準備～実験～後片付けまでを一連の流れとして行う。
- ・ 自主企画「フィールドで水を覗いて感じよう Part 2」の実施（7月28日予定）及び継続化。
- ・ 定期的な勉強会の開催
 - パートナーのスキルアップとして、4月26日 PM1:00～、5月、6月の月1回の開催。
 - 例）分析方法の操作の習得と原理の理解
 - ・ 研修室における実験の安全確保のため、安全管理マニュアルの読み合わせと見直し。
- ・ パートナー新人受け入れ教育
 - 新人受け入れ教育の継続的な実施。

その他

- ・ 平成23年度研修グループの登録者は24名です。リーダーとして尾形、サブリーダーとして安川、浅野が指名され、引続き担当することになりました。ご協力宜しくお願い致します。

（研修グループリーダー：尾形）

イベント・記録グループ

今年度のイベント・記録グループの主な自主活動はセンター周辺のウォーキングイベントの開催、環境写真撮影会及び川尻川探索コース設定を計画しています。グループにとらわれずパートナーの交流の場とセンター周辺の環境について知る機会を与えられればと思っています。

1. センター周辺のウォーキングイベント開催

昨年度は戸崎コース及び沖宿コースのウォーキングマップを作成し、戸崎コースのウォーキングイベントを実施しました。今年度は両コースのウォーキングイベントを計画しています。センター周辺をウォーキングする事により地元の事をもっと知ってもらいそしてパートナーの交流の場となればと思っています。別途開催連絡を致しますので多数の参加をお待ちしています。

2. 環境写真撮影会

環境写真展は毎年開催していましたが、昨年度は残念ながら開催できませんでした。今回は趣向を変えて撮影会とします。参加者一同が所定の場所で撮影してもらいます。被写体が同じものでも、その人の感覚、見方によって異なる写真になり個性が表れます。撮影技術に関係なく自分の思うままに撮影する事で、自分の思いを写真に表現してもらいます。開催時期は7月末頃を予定していますので多数のご参加をお待ちしています。



松学寺山門前



海蔵寺内のお地藏

3. 川尻川探索コースの設定

センター近隣で南北に流れる約2.9Kmの川尻川は谷津田を流れる小さな川ですが、昔は戸崎城を守る湿地帯としての役目があり、現在は蓮田、水田等に利用されています。川というものはいろいろな役目をしているもので川尻川はどのような環境にあるのか、まずは探索コースを設定し、その後イベントを開催したいと計画しています。
(イベント・企画グループリーダー：栗原)

植物グループ

植物グループでのパートナー活動は、センター主催の「野外講座」における運営補助活動と、「パートナーの自主的な学習活動」として毎月実施するセンター南湖岸での「植物定点観察活動」の環境学習推進活動です。

野外講座は主として霞ヶ浦流域内の植物観察を通して霞ヶ浦の水質浄化に関心を深めてもらう目的で、今年度は4月13日(水)に実施した“水郷県民の森”での春の植物観察を皮切りに年間10回(4月～翌年1月までの毎月原則第2水曜日)が予定され、運営補助として参加するグループのパートナーは「説明補助」「写真」「記録」「安全・ゴミ」の作業を全員各人それぞれが分担して一般参加者に対応することとしています。

定点観察活動の今年度は、第Ⅱ期活動の3年目に入り節目の年として「AB区」「EF区」「GH区」の3班編成により ジョウロウスゲ(絶滅危惧Ⅱ類)、ノウルシ(準絶滅危惧種)、アレチウリ(特定外来生物)など第Ⅱ期観察指定植物22種その他、ヤナギトラノオ(県絶滅種)、アサザ(準絶滅危惧種、県希少種)、サジオモダカ(オモダカ科の多年草)など、その後生育が確認された16種の貴重な新出種を加えて観察することとしました。そのなかで昨年度から始めたその月の観察成果の中から特徴的な植物を選び写真をメインにコメント・位置図を加えてデジタルにまとめたセンター内展示を更に改良、充実させて継続することとします。また、これまで「香澄」に掲載して来ました各月の“活動の抄録”は四季ごとに1ページにまとめて投稿することとします。

次に、植物グループの新たな活動として、グループパートナーのスキルアップを図るため、4月に実施した「国立科学博物館 筑波実験植物園」の見学会に続いて梅雨明けには「浮島湿原・カドハリイ」の観察会や夏休みを利用しての「(株)ツムラ 漢方記念館、薬草見本園」や「渡良瀬遊水地 湿地資料館」など水質浄化に関係した施設の研修・見学会を予定していますので関心のあるパートナー各位の参加を期待しています。

(植物グループリーダー 有吉)

魚グループ

2月の定点調査後のミーティングで、本年度も、魚グループでは昨年度同様の活動を行っていく事にした。

1. 湖岸での定点調査 原則として第2土曜日の午前中に投網による魚調査と水質調査を行い、昼食をとりながら、その日のまとめやミーティングを行う。悪天候の場合は延期することもある。

2. 自然観察会の補助 今年も9回の自然観察会を予定していて、そのうち7回は魚の観察会であるが、7月には昆虫の観察会、1月には水鳥の観察会を予定している。魚の観察会は原則として霞ヶ浦で行うが、5月には流入河川である桜川で行う。桜川の観察会は昨年2度計画したが、いずれも川の水位が上昇して中止になったものであり、今年は実施できることを期待している。

3. センターのイベントの補助 5月の子供環境フェスティバルは中止になったが、8月の夏まつりでは投網教室と昨年から始めた魚釣りゲームを行う予定である。魚釣りゲームは昨年好評であったので、魚を増やすなど改善する。また、昨年定点調査で捕れた魚をまとめて掲示し、水質調査の結果も同時に掲示する予定である。

(魚グループリーダー：腰塚)

図書グループ

図書グループのメンバーは総勢 18 名（5 名減）で、毎週金曜日、交流サロンが利用可能な日に活動を行います。

活動内容は従来の継続テーマで

- ① 文献資料室の蔵書紹介（全員）
四半期ごとにテーマを設定して蔵書を紹介していきます。
- ② アクリルタワシ作成指導への協力（全員）
- ③ 「テーマ別新聞切抜き綴り」の作成（希望者）
- ④ 読み聞かせ（希望者）
毎月第 3 日曜日に絵本や紙芝居を利用した読み聞かせを行います。
※ただし、交流サロン再開後
- ⑤ 「霞ヶ浦 Q&A」の作成
平成 22 年度は、仕事量や活動状況から具体的な作業に入れずに経過してきましたが、本年度は着手したい。

（図書グループリーダー：山中）

「香澄」に対するアンケート結果

3 月のパートナー登録更新に併せてお願いしました「香澄」に対するアンケートには 47 通の回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。集計結果の概要は以下の通りです。

全体の評価として、記事内容・レイアウトとも“非常に良い”“まあまあ良い”を合わせて 7 割を超えており、“センター及びパートナー・他グループの活動情報がある程度分かる”“パートナーの方々の色々なことを知ることが出来る”などと肯定的意見が多く、皆様方に受け入れられていると感じられます。

今後取り上げて欲しい記事内容としては“新しく参加していただけるパートナーの方の紹介”“センター及びパートナー活動などの紹介”“環境問題に対する取組実施例や霞ヶ浦のために活動している団体の紹介”などのご提案をいただいております。

また、“投稿される方が偏っている”“編集委員の原稿が多いがもっと色々な人に書いて貰い、お互いに知り合う場にしたらよい”などのご意見も数多く、“皆で気楽に投稿したい”“少しでも協力したい”“今後も続けて”など激励も戴きました。

いただいたご意見・ご要望を編集部会で検討し、少しでも皆様の期待に応えられるよう努めてまいります。

今後とも皆様方のご協力・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

（編集部会 安川）

「質問と回答」（一部省略）

- Q1. 定期的に発行されていることは < 知っていた 45 知らなかった 2 >
Q2. どの位読んでいますか < 毎号 26、時々 17、1~2回 1、読んだことない 3 >
Q3. 他の人に紹介されたことは < ある 11、ない 31 >
Q4. 全般の印象は

	非常に良い	まあまあ良い	ふつう	良くない	悪い	無記入
記事内容	13	23	6	0	0	5
レイアウト	12	20	7	3	0	5

- Q5. 関心のある記事、興味がない記事は

	関心がある	興味がない
① センター行事のトピックス	41	0
② パートナーグループ活動報告	39	3
③ 文献紹介	33	5
④ 自然・環境エッセイ	37	3
⑤ 旅行記や趣味、身の回りの話題や活動体験記など	33	8
⑥ 俳句、川柳、写真などパートナーの作品	24	12

第1回「パートナー霞ヶ浦クリーンUp活動」を実施して

平成23年度 パートナー企画部会新規プロジェクトとして、パートナー活動を地域や社会に見える形で貢献したいとの思いから、美しく、きれいな霞ヶ浦の実現に向け、センター下霞ヶ浦湖岸(2.3Km 範囲)の清掃(ゴミ拾い)を1回/月のサイクルで計画し、その第1回目を4/16(土)に実施いたしました。

この企画は、参加対象をセンターパートナー登録者とし、霞ヶ浦環境科学センターの協力支援を頂くことで企画したものです。

実施当日(4/16)は、パートナー有志7名とセンター職員1名の計8名が、軍手に金バサミそして、回収用ビニール袋(40L用)を持ち、うす曇りの天候を気にしながら9:20にセンターを出発、徒歩10分程で湖岸に到着、2班に分かれ11時までの約1時間30分の清掃作業、その後センターにて回収品の分別確認を行い、第1回目の活動記念として、集合写真を撮り11時55分に終了。回収量は、可燃物9袋と不燃物7袋、その他の約4袋を回収し、記録に残しました。

今回の活動で感じたことは、良心をとがめながらも、人が見ていないからとか、他の人も捨てているからとかで、捨てる行為を助長するような状況にある、湖岸の現状が根本的な課題であるとあらためて感じました。

利用する皆さんが「霞ヶ浦は自分の庭」であると思えば、ゴミも少なくなるものと考えましたが、そのようなきれいごとではすまなそうです。

まずは、地道に活動をすることでゴミのない状態にすることが肝要であると感じました。そうすることで、捨てるという行為が少しでも減少されるのではないかと性の善説に立ち、根気よく、泥くさい活動を継続しなければと痛感しました。

2回目以降からは、月毎の回収量が減少することに期待し、関係する皆様の協力を得ながら、ゴミのない霞ヶ浦を目指し「パートナー霞ヶ浦クリーンUp活動」を推進していきたいと思えます。

記：尾形



【投稿】

刻字の歴史(日本刻字協会編:刻字をたのしむより)

1. 書と刻字

書とは、意思伝達のために言語を文字として書きつけることから始まり、刻字は、かかれた文字を未来へ伝達するための保存から始まったといつてよいでしょう。

現在見られる最古の文字は、殷代の甲骨文(紀元前1300年ころ~紀元前1000年)です。亀甲や獣骨などに刻された古代文字ですが、構成の確かさやバランスの微妙さとともに、刀法の速度や圧力の変化、刻法的にも高度な技巧が見られます。刻字も遡れば3000年以上の歴史を有しているのです。

2. 刻者の登場

漢代に入ると石碑に文字を刻した人の名前が見られるようになります。最近、北京市近郊から出土した(元興元年105)の「幽州書佐秦君神道闕」には(魯工、石巨宣・造)なる署名があり、これは現在発見されている中で最早の記録です。同じ頃の「祀三公山碑」「西嶽華山廟碑」「武氏祀石闕銘」などにも刻者の名前が見られます。この時代、既に刻者の存在が認識されていた一証明として特筆したいところです。

3. 素晴らしい刻技と自書自刻

唐代になると刻技がより洗練されてきます。永徽4年(653)建立の「雁塔聖教序碑」は書者・刻者の絶技を永劫に伝えるものというべきでしょう。書は初唐の三大家として有名な「ちよすいりょう 柳公権」(596~658)刻

者は「ばんぶんしょう 万文韶」です。「ちよすいりょう 褚遂良」の呼吸まで聞こえるような精彩さで刻されています。しかしながら、今まであげた石碑はすべて書いた人と刻した人とが別人です。自分で書いて刻する。いわゆる自書自刻は古来少ないと思いますが、自書自刻を心掛けたいものです。

4. 扁額

私たちがよく見る身近な刻字の一つに扁額があります。扁額とは横長の額のことです。日本では古くから木材を使った扁額が表札の意味で建物の入り口に飾られてきました。木材を用いる目的の一つに、年月を経て変化する風合いがあります。彩色が退色して古びた木材の寺社号額や老舗の招牌（看板）個人の家屋の表札などには独特の味わいを感じさせます。

5. 現代の刻字

1960年、第15回毎日書道展に刻字部が新設されました。それまで展覧会では篆刻の一部と見なされていた刻字が、一つの部門の芸術として独立して発展してきました。1970年には日本刻字協会が設立され年々多くの人が刻字を楽しみ自由な作品を発表しています。展覧会はこれまで国内だけでなくハルビン・天津・ウルムチなど海外でも開催され、中国書法家教会内には刻字研究会が設置されるほどになりました。現在は5ヶ国による国際刻字連盟も結成され、あらゆる文字、素材によって、創造力あふれる作品を発表し、活況を呈しています。

6. 私と刻字

2004年につくば市で芸術祭が開催されたときに、女房が刻字の先生と知り合いになり一度見学に行くよう進めてくれました。4月に教室に伺い様子を見学させていただきました。私は、あまり手先は器用ではありませんが、なんとなく面白そうなのでやってみようという気持ちになり即道具一式を注文してスタートしました。性格的にこつこつとやることは得意なので集中してできるのが楽しいです。まだまだ未熟な身ですが、いい作品ができるよう頑張りたいと思っています。（以下次号） 和知裕善

香澄俳壇

春の句

風光る湖面の果てに伸ぶる水脈

春光を沖より運ぶ波頭

水温む船べり影がけぬらん

小宇宙始まる密度木の芽時

早春のまぶるはるかなる雨上がる

囀（たねま）の伴奏となる風の音

小松俊夫

「パートナー情報誌 香澄」原稿募集

香澄編集部では「香澄」に掲載する原稿を募集しています。内容は問いません。センターでの活動内容や、趣味などなんでも結構です。写真も大歓迎です。原稿はパートナー室のメールボックスに入れておいていただければ結構です。多数の皆さんのご投稿をお待ちしております。（パートナー情報誌「香澄」編集部会）

【編集後記】東日本大震災は、被害者のみならず、すべての日本人の人生観を変えたとも言われています。何がどう変わったのかは、様々なメディアを通じてこれから論じられるのかもしれませんが、できるだけいい方向へ変わっていることを期待するばかりです。(H)